

海燕社

の小さな

映画会 2022

10/23(日) 14:00~ 沖縄県立博物館 美術館(3F)講堂

13:15 受付 13:30 開場 料金 1,500 円 ※完全予約制 後援: 沖縄県、那覇市
予約はそれぞれの会の 1 か月前から受付けます。※小中高校生は先着 10 名様まで無料
予約・問い合わせ (かいえんしゃ) TEL 098-850-8485/mail@kaiensha.jp

九州・沖縄から

文化力

POWER OF CULTURE

副作用はゼロ！この映画は人生を変える「言葉の処方箋」です。
がんに悩む人々が元気になるその瞬間、映画空間が明るく人々に語りかける。
病に苦しむ全ての人々に贈る映画。

『ハルコ』『マリアのへそ』『61ha 絆』

野澤和之監督作品



【あらすじ】

順天堂大学 名誉教授の樋野先生が提唱する医学と哲学を結びつけた「がん哲学外来」。がん患者の苦しみを言葉で癒す「言葉の処方箋」を処方する「がん哲学外来」から生まれた「がん哲学外来メディカル・カフェ」を舞台にしたドキュメンタリー。「言葉の処方箋」は副作用ゼロ、おまけにお金もかからない。「メディカル・カフェ」は、患者達が対話し、苦しみや悩みを分かち合い、病氣と向き合う場として生まれた交流の場。がんにかかっても明るく生きる 4 人の姿を通して、がんとともに生きる人への勇気や人生の希望を見出だしていく。がんを患っている方々やその家族に限らず、全ての病氣や悩みを抱える人たちへの「言葉の処方箋」が散りばめられている。



言葉の処方箋 がんと生きる

ドキュメンタリー映画



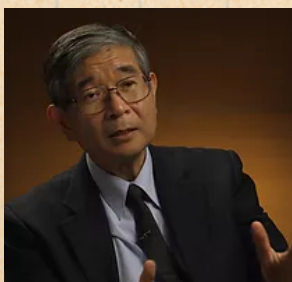
【映画の中での言葉の処方箋】

解決できなくとも解消はできる
マイナス × マイナス = プラス
マイナスの人間同士が集まればプラスに
変わることができるあなたはそこにいる
だけで価値がある存在病氣は人生の夏休み
生きている限り、人には使命がある
問題は寿命の長さではなく何をしたか
がんも病氣も個性の一つです
使命感があれば寿命は延びる
全力を尽くして心の中でそっと心配する
どうせなるようにならないから



文部科学省選定
厚生労働省推薦

【順天堂大学 名誉教授 樋野興夫先生からのメッセージ】



2019 年 3 月をもって、『65 歳の定年退職』迎えた。癌研から順天堂大に赴任した (2003 年)、この 15 年の歩みから、集大成として、ドキュメンタリー映画『がんと生きる 言葉の処方箋』が、制作されることになった。まさに、『定年退職』の恩返しプレゼントである。思えば、私は、2005 年、クボタショックの年、順天堂医院で、「アスベスト・中皮腫 外来」開設する機会が与えられた。そして、2008 年、順天堂医院で、「がん哲学外来」が始まった。毎日新聞、読売新聞、NHK にも大きく報道された。10 年以上前であろうか、朝日新聞の一面の記事に、私のことを、『「変わり者」でなく「変わり種」と、紹介されたことが鮮明に甦った。「変わり種」は「からし種」の如くとのことである。今年の 3 月 7 日の誕生日に、『種を蒔く人になりなさい』が、発行されることになった。人生不思議な出会いである。新渡戸稲造 (1862~1933) は、国際連盟事務次長時代に、「知的協力委員会」(後のユネスコ)を構成し、知的対話を行った。そのメンバー中には、当時の最高の頭脳を代表するアインシュタイン、キュリー夫人もいたことは特記すべきことである。今こそ国際貢献として、「21 世紀の知的協力委員会 ~ ドキュメンタリー映画『がんと生きる 言葉の処方箋』 ~」の世界発信の時ではなかろうか。

沖縄県の緊急事態宣言発令中(会場閉館の場合)は映画会は中止です

※上映会に参加の際は、マスク着用、検温、手指消毒にご協力ください。当日、熱、咳、だるさを感じたら、来場をお控えください。